

---

## 第1地域 RRFC 便り2月号

---



### 【ロータリー財団による堅実な資金管理 ご寄付を最大限に活かすために】

2016年、ロータリー財団は、財務の健全性と透明で明白な説明責任（アカウントビリティ）を積極的に推進してきた実績をチャリティナビゲーターから認められ、10点満点という誉れ高い評価を受けました。

ロータリー財団は、米国すべての州の慈善事業に対する独立評価で、9年連続で4つ星の評価を勝ち取っています。(注:2021年1月現在、13年連続で4つ星評価を得ています)

このような実績を達成している団体は国全体でわずか1%ほどです。

ロータリー財団はまた、米国ファンドレイジング・プロフェッショナル協会 (AFP) から、2016年度世界で最も卓越した財団に選ばれました。この栄誉の過去の受賞者には、ケロッグ、マッカーサー財団といった有名な財団が名を連ねています。

そのような団体はすべて、ロータリー財団に寄付することは賢い投資であるという考えで一致しています。皆さまも、賢い投資をなさっているのです。私たちは、皆さまの貴重な投資が、今後何年間も最大限の影響力をもって生かされるよう、最初から最後まで徹底した資金管理を行っています。

## 寄付先を選ぶ

ロータリー会員はなぜロータリー財団に寄付をするのでしょうか。それには理由があります。安全な飲料水の支援、ポリオ撲滅、または特別

なグローバル補助金など、皆さまの人道的目標が何であれ、その実現達成のためには、一番簡単な方法だからです。

ご寄付はさまざまな基金に指定できます。ロータリーが焦点を置くポリオ撲滅のためのポリオプラス基金、特定のグローバル補助金やロータリーの重点分野などです。

「たとえどんなに小さな寄付でも、グローバル補助金、ポリオ、または国際財団活動資金（WF）などに照準を合わせた、特定の基金にご寄付いただけます。また、用途を指定せずに寄付をされますと、財団は最も必要なところに寄付が使われるよう、フレキシブルに取り計らうことができます」と話すのは、エバンストン・ロータリークラブ（米国イリノイ州）会員、エイプリル・ジェンセンさんです。彼女はロータリー財団の資金推進に携わっています。

奨学金またはご家族の基金を設置したいと思われたことがある方の中には、その運営にまつわる様々な面倒な手続きにうんざりされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ロータリー財団では、そのような運営を手際よく執り行うことができます。25,000 ドル以上のご寄

付をされた方には、ご自分の支援されているプロジェクトの詳細を織  
細に記した独自レポートをお送りいたします。ご寄付は、現金や株、  
または遺贈など、ご都合に合わせて最適な方法を選べます。

皆さまの寄付は 50%ずつに分割され、半分は地区財団活動資金

(DDF) に、もう半分は国際財団活動資金 (WF) に配分されます。

WF は、最も必要とされる場所に財団が資金を上乗せできるように  
貯蓄されるものです。

## **補助金の授与**

財団がプロジェクト資金として補助金を授与する際、長期間にわたっ  
て皆さまのご寄付がしっかり生かされて使われているかは、どのよう  
に確認されるのでしょうか？

「持続可能性は、地域調査から始まります」と説明するのは、元 RI  
理事で財団の専門家グループ委員長を務めたフィリップ J. シルバー  
ズさんです。

**グローバル補助金の立案で重要な 6 つの持続可能性の要素は以下の通  
りです。** 🌍

- 地域の人びとから始める
  - 現地の人びとにプロジェクトへの帰属意識を持ってもらう
  - 教育や研修を提供する
  - 地元で物資を購入する
  - 現地の資金源を探す
  - プロジェクトの成果を測定する
- 

ロータリー会員は、プロジェクトを企画する前に、その地域のニーズの陰に潜む広範囲の状況を理解するために、まずその地域の父親、母親、児童、高齢者、政治家など、様々な人々と話し合いを行います。

「そうしておけば、どんなプロジェクトが出来上がっても、地域の人びとはそこに自分たちの足跡を見ることができます。私たちが本当に望むのは、地域の人たちがプロジェクトの始まりから、帰属意識をもって活動してくれることなのです」

グローバル補助金の立案では、持続可能性の6つの要素を明白にしておく必要があります。まず、地域の人びとから始めること。現地の人びとにプロジェクトへの帰属意識を持ってもらうこと、教育や研修を

実施すること、現地で物資を購入すること、地元での資金源を探ること、そしてプロジェクトの成果を測定することです。

これらをしっかり行えば、そのプロジェクトは地域の長期的な解決策としてしっかりと機動し、その地域は補助金支給が終わった後も、継続して発展することができます。

プロジェクトの提唱者には心強い味方がいます。ロータリー財団には、皆さまのプロジェクトの企画デザインをお手伝いするため、地域特有の、また文化的問題について詳しい知識を持つ補助金担当職員や経験豊かな重点分野マネージャーがいます。

ロータリーは、早期の立案段階でロータリークラブと現地の専門家を繋ぎ、持続可能性をそなえた大規模のグローバル補助金の実施を奨励することで、地域で長期にわたる貢献ができるプロジェクトを推進しています。

地区ガバナーが任命するロータリアンである地区国際奉仕委員長は、プロジェクトの実施においてロータリアンの専門家ネットワークとのつながりを援助します。この専門家ネットワークとは、様々なプロジ

エクトやグローバル補助金に携わった経験のあるロータリアン行動グループメンバー、ローターアクター、平和フェローやその他の学友です。

## **成果と持続可能性のモニタリング**

補助金のモニタリングと評価は、プロジェクトの立案を通して構築されます。「地域社会のニーズ調査を行うことで、プロジェクトにどんなインパクトをもたらすことができるかを特定できます。評価の測定基準を何にするか？現れた変化・成果が継続するかどうかをどのように知ることができるか？私たちの寄付者や受益者に対して、本当によい貢献をしたかをどうやって紹介することができるのか？」とシルバースさん。

**ロータリアンを知る人は誰でも、私たちがいかに時間と資材を惜しみなく使うかを知っています。これによって寄付者は、自分が寄せた寄付が堅実に管理されていると安心できるのです**

## エリック・キマニ、ロータリー財団地域コーディネーター



「財団は、寄付金のインパクトを長期的に持続させるために、さまざまなことを行っていますが、その中で最も重要な**チェック&バランス**（抑制と均衡）は、ロータリアン自身そのものかもしれません」と話すのは、第ゾーン 20A のロータリー財団地域コーディネーターであり、ナイロビ・ムザイガ・ノース・ロータリークラブ（ケニア）会員のエリック・キマニさんです。「皆さんのところによいロータリアンがいれば、彼ら自身が最高の資金管理のバロメーターとなります。ロータリアンを知る人は誰でも、私たちがいかに時間と資材を惜しみ



なく使うかを知っています。これによって寄付者は、自分が寄せた寄付が堅実に管理されていると安心できるのです」

👉 エリック・キマニさんは2019年3月エバンストンで開催されたRLTI（地域リーダー研修セミナー）のモデレーターを勤められました。私は次期ロータリー財団地域コーディネーター（RRFC）として参加し、タイムリーにキマリ氏の話聞きながら感じたことは地域の活動に裏打ちされた説得力のあるお話であったことを思い出します。

（👉羽部記）

（以上はマイロータリーからロータリー財団をクリックしてストーリーの3番目「[ロータリー財団へのご寄付は有効活用されています](#)」から[全文を読む](#)ことができます）



（ポリオ根絶にご協力を）

## 【悲しき真実：世の中に不足する「人助け」】

不可欠な役割を担う人たちが足りない社会について  
考える



# 「人助け」

世間では、医者や看護師、教師など、必要不可欠な職種が人手不足になることがあります。

一方で、庭師、バリスタ、俳優、マッサージ師、トレーナー、美容師、コンピュータープログラマー、シェフ、ヘッジファンド担当者、バレリーナ、不動産屋、保険調査員、漫才師、バーテンダー、シンガーソングライター志望者、自動車販売屋などが足りなくて困ることはあまりありません。

同じことが、「人助けをする人」(Good Samaritans)にも言えます。自分より人を助けようとする「利他主義」が、世の中に不足しているのです。

慈善団体が不足しているわけではありません。社会のために活動する教会、財団、政府機関は数多く存在します。しかし、慈善団体だけでは、コロナ禍が生み出した諸問題に対処できません。どの時世でも、社会は善意ある人たちの行為に頼っています。

世界の隅々にロータリークラブがあります。入会については近くのロータリークラブに直接お問い合わせください。

## 人助けをする人 vs たまに人助けをする人

ほかの大勢の人と同じく、私は生まれつきの善人ではありません。善い行いをするように教えられて育ったおかげで、何とかまともな人間になっていますが、自分が高潔な人間のかみだとは思っていませんし、せいぜい、高潔な心をもつ伴侶を得たぐらいです。

コロナ禍が始まって以来、それまで社会貢献とは縁のなかった多くの人が人助けをする姿を見るにつれ、慈善について深く考えるようになりました。私が住む小さな町のように、これまで一握りの人が人助けをしてきた場合、ボランティア未経験者（またはボランティア経験が少ない人）による活動が、時として迷惑になることがあります。汚染された湖やゴミだらけの公園の掃除、高齢者の付き添いや外国人への言語教育といった活動のすべてにおいて、その正しい方法というものがあからずです。

大切なのは「気持ち」だとよく言われますが、それは正しくありません。善いことをするなら、正しい方法でなければなりません。たまに人助けをする人は、その正しい方法がわかっていないことが多々あります。七面鳥が欲しい人にチキンをあげたり、ハムが欲しい人に七

面鳥をあげたりします。食料品の寄贈を募っても、人びとが本当に必要とする食料が十分に集まらずに、結局スーパーで買い足さなくてはならないのが常です。たとえ慈善活動であっても、それでよいわけがありません。

(人助けをする人も) 助っ人が必要です。絶えず新しい人材を集める必要があり、だからこそロータリークラブが存在するのです。

(この記事は『Rotary 誌』12月号の掲載記事をマイロータリーのニュース・特集記事から転載しました。マイロータリーから全文を読むことができます。)

(第1地域 RRFC 便り2月号はマイロータリーのニュースと特集記事からの特集になりました。羽部記)



92%

の資金はプログラムと管理運営費に  
使用されています

連続受賞凄い!

## 【虚子の句と三味線を引く鬼】

『節分や 鬼も薬師も 草の戸に』



高浜虚子は 1874 年（明治 7 年）に松山藩士・池内政忠の五男として生まれました。『ホトトギス』の理念となる「客観写生」「花鳥諷詠」を提唱したことで知られています。県立松山東高校に入学して 1 年先輩の河東碧梧桐と同級になり、彼を介して正岡子規に兄事し俳句を教わりました。明治 24 年、子規より虚子の号を授かりました。明治 28 年 12 月、自身の短命を悟った子規より後継者となるように要請されるが「アシは学問する気はない」と拒否した「道灌山事件」が起きたのです。子規が没した明治 35 年からは、

俳句の創作を辞め、その後は小説の制作に没頭することになります。大正2年、碧梧桐に対抗するために俳諧に復帰します。この時に読んだ句が「春風や闘志抱きて丘に立つ」これでした。生涯に20万の句を詠んだと言われていました。しかし、現在活字として確認できるのは2万2千句であるようです。1954年昭和29年には文化勲章を受賞され、1959年昭和34年4月8日、脳溢血のため85歳の生涯を鎌倉市由比ヶ浜の自宅で永眠されました。子規より随分長生きされました。

今回の「節分や 鬼もくすし（薬師）も 草の戸に」は、一年で最も寒い時期を迎えて、2月と言えば節分。まさに冬と春の分かれ目で、もう直ぐ春ですからそう信じてこの寒さを乗り越えましょう。節分には、新しい春を迎える前に邪気を払い、福を招く豆まきなどの習慣が各地で行われます。「くすし」とは「薬師」すなわちお医者様のことで、厄災も病気も追い払い、無病息災で穏やかな春を願う気持ちを表現した句です。草の戸は松尾芭蕉の句にも出てくる表現草で編んだ戸（玄関）貧しい家でも誰でも、どこでもそのように無病息災を念願して春を待ったのですね。下の絵は子規の元に集まった仲間達、子規居士はなく、仲間も往きて往時を偲ぶ絵図です。



今回の絵は、「大津絵の鬼の三味線」を模して描きました。この絵に次の歌が添えられていました。「目には酒 耳にはやさしき 三味の音に ひかれてさらに 鬼とはおもわず」お釈迦様は五戒の中に不飲酒戒を一つに戒めています。お酒を飲み過ぎると遂には我を忘れて鬼になることを言っているのでしょう。ご用心♪御用心♪(羽部記)